

校長室より

第5号

「天空高き」



平成22年7月13日

4月7日に始業式をスタートし、8日入学式。9日に開校記念講演後、新入生は2・3年生と対面式。……新米校長は右往左往しながら、もう少しで1学期の終業式を迎えます。あっという間でした。1年生のみなさん、高水学園での中学校生活に慣れ充実した楽しい毎日をご過ごしていますか。

期末考査終了後のクラスマッチを観戦しました。蒸し暑い中、最後までボールを追う姿、クラスメイトを一生懸命応援する姿を数多く見ることができました。また、みなさんが味方選手を、対戦相手を、審判を、道具を、時間を、リスペクトしてくれておりました。とてもうれしかったです。

1年生のみなさんは先輩と比べると、技術や体力に大きな差があります。しかし、中学生の時期は人生の中で身体も心も飛躍的に成長します。授業や部活動をとおして **たかみず**（耐えて克つ 磨いて優れよ）をモットーに鍛えてください。2・3年生のみなさんは後輩から慕われ、信頼され、目標にされる先輩に成長してもらいたいと思います。

最近「すごいな!」と思ったことが2つありましたので紹介します。

その1 はやぶさ帰還!

みなさん、はやぶさ帰還についてはニュース等で知っていますよね。

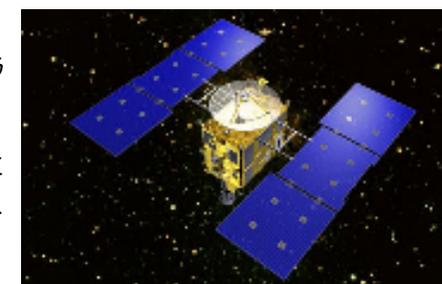
少し詳しく説明しますが、2003年5月9日、鹿児島県内之浦から1つの探査機が地球から遠く離れた小惑星を目指して打ち上げられました。「はやぶさ」と名付けられたこの探査機は、サンプルリターンという往復型の惑星探査を目的に開発されました。小惑星には太陽系の起源を知る



小惑星 イトカワ

手掛かりが残されており、そのサンプルを分析することで、太陽系の謎を解くための重要な手がかりが得られると期待されています。「はやぶさ」が目指した小惑星イトカワ（地球の軌道と似た軌道を持ち、日本のロケット開発の父である故糸川英夫博士にちなんで「ITOKAWA」（イトカワ）と名付けられた）は、「はやぶさ」が到着した時には地球から約3億kmも先、しかも直径がわずか540mの小惑星です。「はやぶさ」は無人の探査機であるにも関わらず、そんな小さな惑星に降下して地表サンプルを採取し、地球に持ち帰るというのです。このようなミッションを背負った「はやぶさ」には、新型エンジン（イオンエンジン）や自律航法（自らが自分の位置を判断し、自分で目標に近づきながら、姿勢を変える）などの世界の宇宙関係者が注目する最先端の技術が採用されています。そして「はやぶさ」は、すでに数々のミッションを達成し、そして予期せぬさまざまな苦難も乗り越えて、2010年6月13日に地球に帰還し、搭載カプセルをオーストラリアへ落下させ、その運用を終えました。

その後、その搭載カプセルに微粒子が入っているというニュースがありました。ただ、この微粒子がイトカワの物質か地球上の物質かは现阶段では不明で、詳細を検討中だそうです。



前置きが長くなりましたが、すごいと思ったのは、「はやぶさ」がイトカワにたどり着くまでにも、離陸してからも、数え切れないほどの故障・不具合が合ったにもかかわらず、スタッフはねばり強く知恵を絞って乗り越えたことでした。月以外の天体に宇宙船が着陸して、再び離陸したのは世界初で、地球まで戻ってきたのも世界初。我々の想像を絶する偉業を成し遂げたスタッフに賛辞を送ると同時に、日本人として自信、名誉と誇りを感じました。みなさんはどのような感想を持ちましたか。

その2 弁当力!

みなさんのほとんどがお昼はお弁当だと思います。最近読んですごいと思った本（「すごい弁当力!」佐藤剛史 五月書房）がありましたのでその一部を紹介します。

◎袋入り弁当のありがたみ（大学二年生・女子）

中学のとき。学校にほとんど行かない時期があった。いわゆる不登校である。そんな私に、お母さんは、毎日、お弁当を作ってくれた。持って出かけはしないのに、ちゃんと袋にも入れてくれた。それをいつも家で一人で食べていた。「わざわざ袋に入れなくても」って思ったけど、必ず袋に入っていた。

そのときは何も思わなかったけど、大学生になった今ならわかる。その袋は、お母さんの応援メッセージだったのだと思う。今の私があるのは、そのおかげだ。

今は、私が父と母、姉のお弁当を作っている。私も必ず、袋に入れて渡している。

◎ご飯の色が違う恥ずかしさ（大学一年生・男子）

中学生になって、毎日、弁当を学校に持って行かなければならなくなった。友達と弁当を食べながら、見せ合ったり、比べ合ったりしていたのだが、僕にはそれが少しだけ嫌だった。その理由は、僕のお弁当は、ご飯が白くないし、カラフルでもなかった。僕の家は、ご飯は胚芽米で、冷凍食品が一切なかった。友達に「ご飯の色が違う」と言われたこともあって、恥ずかしかった。友達の弁当はとってもカラフルで、バラエティいっぱい。それがとてもうらやましかった。それが冷凍食品だとしても、僕にはうらやましかった。

一度だけ、自分で弁当を作ってみたことがある。その日は、冷凍食品のおかずいっぱいのあこがれの弁当を作った。カラフルでうれしかったけど、それだけだった。

今になってみると、あのお弁当には、母と父の愛がこもっていたんだと思える。

そこで、私からみなさんへの夏休みの宿題です。自分で買い出しをして、家族のために弁当を作りてみてください。いえ、弁当でなくても朝食でも昼食、夕食でも構いません。ただし、冷凍食品を使わない弁当や食事にしてください。きっと新しい発見があると思います。「面倒だなあ」なんて思わないでください。あなたの作った弁当か食事を写真に撮って、ご家族からのコメントとあなたの感想を書いて、2学期の始業式後にクラスでまとめて校長室に持ってきてください。楽しみにしていますよ。私も弁当か食事を作って写真とコメントを第6号に掲載します。

みなさん！自己管理して、充実した、楽しい夏休みにしましょう！

一般常識テストにチャレンジ！

昭和58年(1983年)に実施された一般常識テスト(右面)です。前回と同様、第2代山本真喜雄校長先生が作成されました。当時全校生徒、中1～中3、193名中84点以上が30名でした(中1—1名、中2—9名、中3—20名)。当時在籍していた保護者の方が多数おられます。家族でチャレンジしてみてください。

高水高等学校附属中学校

校長 前田 茂雄